

東京牧村会の近況と報告

東京牧村会 会長

岡 一二

旧東頸城で最も後発の東京牧村会は平成八年秋、当時の中川耕平村長の肝いりで、ふるさととの交流を目的として、牧村の近隣町村で東京に「ふるさと会」を結成活動されていた先輩郷人会の応援を得てうぶ声をあげたのであります。

発足以来、会報の定期発行と、総会の定例開催を上野の森で実施して来ましたが、お陰を持ちまして昨年十月快晴の上野精養軒に於いて「十周年記念総会」を開催致しました。

当日は式典、水森かおり歌謡ショー、懇

親会の三部構成で行いましたが、ふるさとより総合事務所の羽深所長、中川前村長、高波上越市議など要職の方・有志の方約三十名、来賓として東京の県人会、松之山会、松代会、浦川原会、清里会などの代表の方々を含め総勢二百四十余名の盛会で私どもにとって望外のイベントで

ありました。

ふるさと代表・来賓代表の各位よりのお祝辞で記念総会に華を添えて頂きましたが中でも「水森かおり歌謡ショー」は参加者皆さんに感動を与え、喜んでいただきました。

懇親会の乾杯は農業特区指定の牧区坪山の中川卓夫さん提供のどぶろくで中川耕平前村長の発声で行い「雪中梅・ぶなの露」などふるさとの薫りを味わい、お互いの交流を深めることの出来た総会でした。

総会に先立つて九月発行の会報第十号にはふるさとからも約六十余名に及ぶ方々の協力を頂き充実した会報として発行出来ました。

会報は毎年ふるさとの各家庭にも配布し交流を図っております。

記念事業として、当会にとつては初め

ての「ふるさと訪問旅行」の実施を総会で議決し、今年二月の「雪国行つて見体験 in 牧」の参加旅行を企画しました。

実施は二月十日、十一日、参加者は会員及びその家族が中心で二十七名で実施しました。

ほくほく線経由で午前十時過ぎに直江津着、牧区深山荘の迎えのバスに乗車、途中、駅近くのホームセンターでゴム長を買って一路ふるさとに向かいました。

正午前に深山荘着で早速ふるさとの味の山菜料理に舌鼓をうちました。

今年は記録的な暖冬とのことでしたが、参加者の中には初めての体験となる雪景色、雪遊びを楽しむ方もあり、その後は牧振興会の方々がご用意下さった木の枝・稲藁を地元の方々のお手伝いも頂いて雪国名物の「サイの神」を童心に戻って皆んで造り、お神酒を備え、火をつ

けて神事を祝いました。夜に入つて牧区要職の方、振興会の方々による歓迎会を開催頂き交流を深めました。

二日目は牧区公民館前で「苦心頂いて集められた雪での「雪像造りコンテスト」に参加、牧村会の参加者は「国会議事堂」(象さん)の二つの作品を造り特別賞など



牧村会10周年記念総会



を獲得しました。あいにくの天候の中で行われたその他のコンテスト、発表会の合間で参加者は故郷の方々と交歓しました。又同会場で木浦上越市長、中川前村長にも歓迎頂きました。

午前三時過ぎ別れを惜しんで帰途に付いたのであります。